

わんぱく KIDS 終了のご挨拶

平素は NPO 法人シンク・イーの活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。」につきまして、本年開催の第 25 回を以て終了とさせていただきます。永きにわたりご支援ご協力ありがとうございました。

理由といたしましては、主に気候変動による猛暑、豪雨、突風、危険害虫など自然環境が厳しくなり、安全管理の困難化があります。一方で人命をお預かりする統括責任者としての重責に耐える体力気力は年齢と共に衰えており現場判断を誤らないうちにと決断いたしました。

また、学校教育、家庭教育の補完としての地域教育の役割も、民間キャンプの充実や今まで参加頂いたリーダー、スタッフの多くがそれぞれのステージで活躍しており、当事業も一定の使命を果たせたのではないかと考えております。

わんぱく KIDS は終了いたしますが、NPO 活動は継続いたしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

26 年間に出会えた児童、生徒、学生、社会人スタッフ、そしてご協力いただいた個人団体の方々は、私にとってかけがえのない財産となりました。今までわんぱく KIDS にご支援ご協力いただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

今までに多くのスタッフ、リーダーが育ち、統括責任者を務める意志と能力を持つ者も 1,2 名おりますので、安全にキャンプを開催できる施設が見つければ新たな「わんぱく KIDS。」が開催できるかと次世代に期待しております。

ありがとうございました。

2026 年 9 月 1 日

特定非営利活動法人シンク・イー
理事長 喜 多 隆 正

「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。」主なあゆみ

- 第 1 回 「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。 田んぼの学校 in にいはる」
子どもたちの豊かな人間性や個性を生かし、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を育成することを目的とした学習指導要領の変更を踏まえ、(社)東京青年会議所中央区委員会が主催し、2000 年 10 月 14 日(土)-10 月 15 日(日)、群馬県利根郡新治村にて開催。児童 40 名（5 名×8 班）が参加。東京青年会議所メンバーがリーダーとなり、野菜果物の収穫、そば打ち、生き物採集観察、古民家宿泊などを体験。
- 第 2 回～ 「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。 in 宇佐美」
中央区立宇佐美学園を拠点とし、8 月に 3 泊 4 日で開催。児童 80 名（8 名×10 班）が参加。学生ボランティアをリーダーに迎え、野菜収穫、カレー作り、干物作りなどを体験。
- 第 5 回 NPO 法人フレンドシップキャンプへ主催を移管。
NPO 理念「自立型共生社会の実現」、キャンプコンセプト「自分できることは自分です。できないことは助け合う。」を基に、プログラムや運営を再構築。
組織教育キャンプの効果が飛躍する 4 泊 5 日に変更。海磯プログラムを追加。
- 第 6 回～ 児童の定員を 88～108 名に拡大。
- 第 16 回 NPO 法人シンク・イーを設立し、主催を移管。
- 2020、2021 年コロナ禍により中止。
リーダーとのつながり維持も兼ね「大江戸まちいくプロジェクト」にて中高生対象のまち歩き事業開催。
- 第 21 回 東京 YMCA 山中湖センターにて開催。児童 64 名
- 第 22 回 宇佐美学園に戻り開催。施設改修により児童 63 名。
- 第 23 回 児童の定員を 72 名に拡大。
- 第 24 回 宇佐美学園の給食委託業者との契約により調理室が使用不可となり、株式会社オーガニック・キッチン(東京 JCOB)へ家庭科室での調理委託。
- 第 25 回 節目となる最終回を無事開催。

第 25 回「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。」

IN 宇佐美

報 告 書

2026 年 9 月 1 日

主 催

特定非営利活動法人 シンク・イー

目 次

理事長 ご挨拶 > 1

実施概要 > 2

組織・役割 / 会計報告 > 3

5 日間のプログラムのポイント > 4

5 日間の様子 > 5～9

スタッフ及びリーダー 所感 > 10～11

協賛 > 12



理事長 ご挨拶

日頃より、私どもの活動にご理解・ご協力ありがとうございます。

本年も「自然とふれあおう！わんぱく KIDS。」を、無事開催することができました。

関係各位に深く感謝申し上げます。

1 日目、道路渋滞も想定内で川遊びも予定通りでき順調にスタートしました。

2 日目、海プログラム、快晴で日差しは強かったですが海水温が低めで快適に過ごせました。次の日は波が高く遊泳禁止となったので 1 日違いで中止になるところでした。

3、4 日目、風が強かったり夜に強い雨が降ったりしましたが、暑すぎずプログラム進行にも支障ありませんでした。

5 日目、高波で海岸線の道路が一部通行止めとなりましたが、迎車のバスも時間通りに着き、小田原の一夜城公園での昼休憩も快適でした。小田原も夜には雨になったようです。

全日程が悪天候の合間を縫って、結果として病人けが人も特になく予定のプログラムをすべて実施できました事は天に感謝です。

昨年に続き、株式会社オーガニック・キッチンのご協力(人件費無償)で給食調理をしていただきました。子どもたちの評判も大変良くおかわりも進んでいました。この場をお借りして株式会社オーガニック・キッチン様に感謝申し上げます。

私どもは、自分の考えを持ち、他者の考えを認め、社会で率先して役割を担うことのできる自立した人々が協力する社会「自立型共生社会」の実現を理念に活動しています。

本キャンプは、自然とのふれあいにより五感を研ぎ、人とのふれあいにより対話力を養うことを目的に実施しています。

地球規模での自然災害の増加や不安定な国際社会など、次の社会を担う子どもたちの環境は厳しいものと思われますが、自ら道を切り拓き、より良い社会を築き幸せになってほしいと切に願います。ご支援ご協力ありがとうございました。

特定非営利活動法人シンク・イー
理事長 喜 多 隆 正

実施概要

構成団体 主 催 特定非営利活動法人 シンク・イー
後 援 中央区教育委員会
特定非営利活動法人 東京中央ネット
協 力 中央区立宇佐美学園
公益社団法人 東京青年会議所 中央区委員会
株式会社オーガニック・キッチン

主催団体 理念 「自立型共生社会の実現」
事業名称 第 25 回「自然とふれあおう！ わんぱく KIDS。」
事業目的 青少年の健全育成・ボランティアリーダーの育成
事業コンセプト 「自分でできることは自分です。できないことは助け合う。」

開催日程 2026 年 8 月 1 日(土)から 8 月 5 日(水) 4 泊 5 日
開催拠点 中央区立宇佐美学園とその周辺地域および小田原・湯河原地域

事業概要 子ども：3～6 年生男女約 8 名 リーダー：約 3 名
合計約 11 名で 1 つの班を構成 全 9 班
班別行動を基本とし、海・山・川などの豊かな自然環境の中で
各アクティビティを体験する組織キャンプ

参加者 中央区在住・在校の児童 3～6 年生 計 70 名（応募者数：120 名）
ボランティア人員 中高生リーダー 6 名 大学生リーダー 25 名
社会人・リーダーOB 7 名 NPO スタッフ 3 名
干物づくり指導 1 名
調理スタッフ 3 名 施設事前準備 6 名

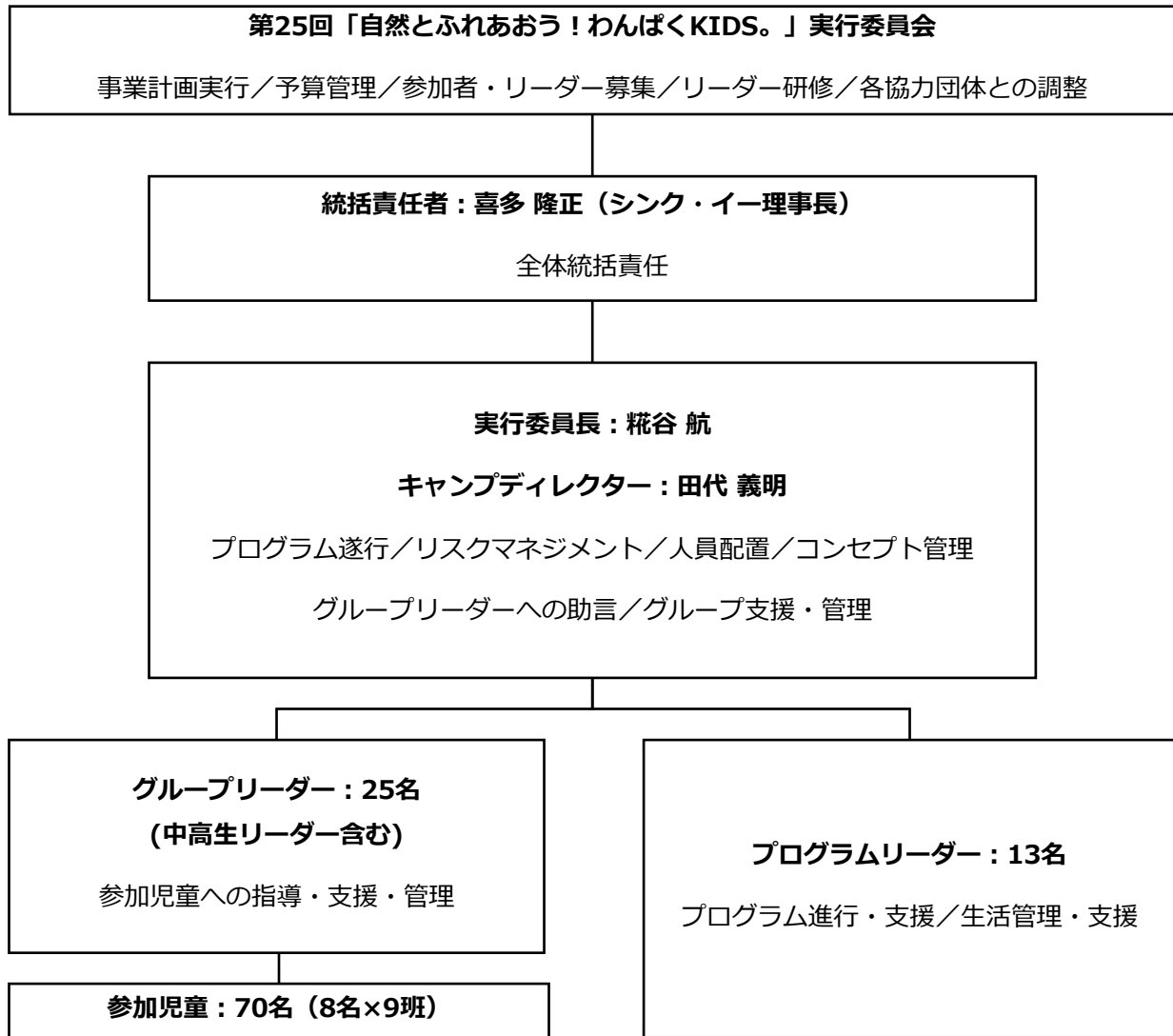
問い合わせ先 特定非営利活動法人 シンク・イー
E-MAIL：2026wanpakukids@gmail.com

写真＆報告書 URL：<http://www.tokyochuo.net/meeting/kids/jigyoku/wanpaku2/index.html>
※写真掲載は、NPO 法人東京中央ネットに協力いただいております
(掲載時期：9～10 月頃を予定)

写真＆報告書



組織・役割



5 日間のプログラムのポイント

■わんぱく KIDS の約束

- 1、自分でできることは自分でしよう！
- 2、ひとりでできないことは助け合おう！
- 3、あいさつをしよう！
- 4、身の回りはきれいにしておこう！
- 5、生き物はたいせつにしよう！
- 6、リーダーになんでも相談しよう！

■方針

生活重視（あいさつ・清掃・整理整頓・履物をそろえる・身体をよく拭いてから浴室を出るなど）

■清掃・整理整頓

毎朝清掃と荷物整理をし、身の回りを自ら正す経験から生活面での自立への気づきを促す

■食事

手をつける前に自分の食事量を考慮し、同じテーブルのお友達とシェアをし、残さないようにする
嫌いなものは目標量を決めて食べる努力をする

■班旗づくり

班のシンボルとなる旗を作り、班員としての意識を高める

■山・川・海での自然体験

都会で出来ない体験により自然への理解を深める
自然での遊びを通じて常にチャレンジをし、成功・失敗体験をする

■野外調理・ひものづくり(食育・食を通した健康や生命に関する教育)

他の生き物の命をもらって生きていることへの気づき
家族をはじめ多くの人たちの労力があって食事ができることへの意識付け

■班別自由プログラムの計画と実施

班ごとに決めたスローガン達成のため、プログラムを話し合い計画する
自己分析、集団の意思決定、自立への気づき
自己・他者を大切にすることの重要性の認識

■江戸城石丁場遺跡散策

身近な地域からの歴史理解（中央区と宇佐美のつながりなど）

■キャンドルファイヤーとふりかえり

全体の一体感と達成感を高め、キャンプの収束とする

5 日間の様子

	1 日目 (8 月 1 日)
朝	T-CAT 集合・出発 (7 : 30) トイレ休憩 (海老名 S.A) 湯河原幕山公園着 川遊び ①②
昼	昼食 (弁当) 湯河原幕山公園出発 宇佐美学園着 入所式 (宇佐美学園中庭にて) オリエンテーション レクリエーション ③ 入浴 夕食
夜	班旗づくり ④ 消灯 (21:00) リーダーミーティング

① 湯河原にて川遊び



② 班のみんなで記念写真



③ 体育館にてレクリエーション



④ 班の象徴となる旗作り



	2日目(8月2日)
朝	起床 朝のつどい(7:00) ① 朝食 清掃 宇佐美海岸着 ② 磯浜あそび ③
昼	昼食(弁当) 磯浜あそび 宇佐美学園着 入浴 夕食
夜	宇佐美の歴史・石丁場遺跡講演 ④ 消灯 ⑤ リーダーミーティング

① 朝からグランドにて運動！



② 海岸まで自分の足で



③ 晴天に恵まれた海水日和でした！



⑤ 寝る前はみんなでまったり



④ 翌日の裏山備えて講演で座学



	3日目(8月3日)
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 ひものづくり ①
昼	昼食(弁当) 班別行動 プール/発表会準備/体育館遊び等 ②③ 入浴 炊事体験(炊飯/ひもの/味噌汁)④ 夕食 ⑤
夜	消灯 リーダーミーティング

① アジのひらきに挑戦!



② 楽しく安全にプール遊び



③ 4日目の発表会準備



⑤ 自分で捌いた干物/ごはん/味噌汁



④ みんなで夕飯作り!



	4日目(8月4日)
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 裏山遺跡散策 ① 体育館遊び／発表会練習等
	昼食(弁当) 班別行動 プール／体育館遊び／食材買い出し ／発表会練習等 炊事体験(炊飯／カレー) ② 入浴 夕食 ③
夜	発表会 ④ キャンドルファイヤー ⑤ 消灯 リーダーミーティング

① 裏山遺跡散策！最後に記念写真



② 夕飯のカレー作り



③ 各班オリジナルのカレー



④ 各班、4日間の思い出を発表！



⑤ 最後の夜はしんみりキャンドルファイヤー



	5日目 (8月5日)
朝	起床 退所準備 朝食 ① 大掃除 宇佐美学園出発 ②
昼	石垣山一夜城歴史公園着 自由行動 ③④ 昼食 (弁当) 石垣山一夜城歴史公園出発 トイレ休憩 (海老名 SA)
夜	T-CAT 到着・解散 (16:00) ⑤⑥

① 最後にみんなでいただきます！



② 自分の荷物を学園下のバスまで



③ 最後のプログラム！最後まで全力で！



④ 最後はみんなで集合写真！



⑤ T-CAT に無事到着！



⑥ 5日間一緒に過ごしたリーダーと記念写真



スタッフ・リーダー 所感

～ 今年度 / これまでのわんぱく KIDS を踏まえて ～

<キャンプディレクター：田代 義明（社会人）>

第 25 回をもって、長く続いてきたわんぱく KIDS が一つの節目を迎えました。

このキャンプでは、子どもたちが家族の手を離れ、初めて出会う仲間と 5 日間を過ごします。思い通りにならないことや、自分一人ではできないことにも出会います。その中で自分にできることを探し、時には誰かを頼り、今度は自分が誰かを助ける。リーダーもまた、子どもたちを任される責任の中で、自分に何ができるのかを問い続けます。「自分でできることは自分です。できないことは助け合う。」わんぱく KIDS は、この言葉を 5 日間の生活の中で体験し、学ぶことのできる場所だったのだと思います。

私自身、大学 1 年生で初めて参加してから 19 年間、この活動に関わってきました。子どもとの関わり方、仲間と支え合うこと、人を信じて任せること、そして誰かが力を発揮できる環境をつくること。ここで得た学びは、今、小学校教員として子どもたちと向き合う私の教育観の深いところに息づいています。

最後のキャンプを終え、何より感じるのは、この活動を長きにわたり継続してきた理事長と、未熟だった私に多くの学びを与え、育ててくださった先輩方への感謝です。同時に、キャンプが終わっても、「自立型共生社会の実現」という理念までが終わるわけではないとも感じています。むしろ、その実現はまだ道半ばです。

これまで手探りで起こしてきた小さな風が、誰かの中に残り、その人の周りにまた新しい風を起こす。そしていつか、誰かの人生や周囲の空気、社会を少しでもよい方向へ動かしていく。私もまたその一人として、これからは自分のいる場所で、自分にできる形でこの理念を実践し続けていきたいと思っています。それが、19 年間この活動から多くのものを受け取ってきた私なりの恩返しなのだと思います。

<プログラムリーダー／キャンドルファイヤー担当：吉田 陽哉（社会人）>

今年度スタッフとしてわんぱく KIDS に携わらせていただきました吉田陽哉です。今回は特に運営スタッフとして活動場所の設営や子どもたちとの交流のみならず、朝のレクリエーションやキャンドルファイヤーの進行など、多岐に渡り役割を務めました。今年もわくわくと楽しさが止まらないキャンプでした。

大学 1 年生の頃から参加し、コロナ禍を経て気が付けば今年のキャンプで 6 期目となります。グループリーダーから始まり、社会に出る頃には行程やスタッフを見守る側になり、立場の変化を感じるとともに、仕事で培った経験を活かし自身の成長も感じられるキャンプでした。

現在は保育士資格や教員免許を持ち、日々子どもたちと生活を共にしております。そんな現役ではありますが、やはりこのキャンプは特別な存在で、子どもたちにとっても私たちリーダー・スタッフにとっても、非日常的であり、教育現場とは違う環境でさまざまな経験ができる場だと感じています。また、デジタル・AI 化も進み社会情勢が目まぐるしく変わるこの現代に、自然と共に仲間と過ごすキャンプはやはり貴重な機会ではないでしょうか。

そんな時代だからこそ、わんぱく KIDS を通して得たものをこれから活かして行ってもらい、『自分でできることは自分です！できないことは助け合う！』という小さなところから、"Well-Being"を基としたより良い社会を創っていかれたらいいなと切に願っております。

末筆ではございますが、わんぱく KIDS に関わってくださった方、そしてご協力いただきました保護者の方にも深く感謝申し上げます。

<プログラムリーダー：大島 陽菜（高校3年）>

私は今年プロジェクトリーダー（PL）として参加しました。私は小学生の頃からこのキャンプに参加しており、子どもの立場で参加していた時期を経て、今年はPLとしてキャンプを支える側になりました。立場が変わるごとに、求められる役割も変化していきました。

PLとして特に難しいと感じたのは、キャンプ全体を見ながら先を考えて行動することです。GLのときは自分のグループの子どもたちを中心に考えていましたが、PLでは全体の進行や他のグループの状況にも目を向ける必要がありました。さらに、周囲の状況を確認しながら「次に何が必要か」を考えて行動することを心がけました。また、GLと比べて子どもたちと直接関わる時間が少なく、名前を覚えてもらいにくいという課題もあったため、自分から積極的に声をかけたり、子どもの名前を呼んだりすることを意識しました。最初は全体を把握することに難しさを感じましたが、経験を重ねる中で、広い視野を持って状況を判断し、自分にできることを考えて行動する力を身につけることができました。

GLを経てPLとしてキャンプを支える立場になれたことは、自分にとって大きな経験となりました。4泊5日を通して、子どもたちが無事に元気で、有意義な時間を過ごすことができたことを嬉しく思います。そして、このキャンプで得た新しい発見や仲間との関わり、挑戦した経験を、子どもたちにもこれからの学校生活や将来に生かしてほしいと思います。

<1班グループリーダー：竹村 星南（大学4年）>

私がわんぱく KIDS に初めて参加してから13年、キッズとして3回、リーダーとして8回参加をしました。私にとってわんぱく KIDS はかけがえのないイベントで、現在教員を目指していますがそのきっかけもわんぱく KIDS でした。4泊5日、親から離れて知らない人達と過ごすというなかなかない体験で、たったの数日なのに成長していく子供たちの姿がとても印象に残りました。自分がキッズの頃を振り返っても5日間の思い出は濃く残っており、未だに会う友達も出来ました。リーダーとして参加するようになってから、子供たちとの関わり方を学んだり、他の年下のリーダーが成長していく姿などを見て自分の糧となりました。最後と聞いて挑んだ今年、裏方として働いてた数年で久しぶりのグループリーダーでどんな動き方をすればいいか、子供たちとの関わり方も手探りでした。「自分でできることは自分でする、できないことは助け合う」というコンセプト。自分たちリーダーが言わなくても子供たち自身で意識して行うようになっていく姿を改めて感じ、この成長こそ私が教育を目指すきっかけになったものだ、子供たちを育てていく立場になる意識を高めることができました。

今年の班は中学生リーダーもいて、自分の頃を思い出しながら頼りすぎなくらい仕事をお願いしていましたが、それ以上の働きをしてくれた中学生リーダーには感謝しかありません。

言葉では表せられないほどたくさんの経験と学びをわんぱく KIDS ではさせていただきました。今の私があるのはわんぱく KIDS があったからです。キッズ、リーダーがこんなにも成長出来る機会が無くなってしまったというのはあまりにももったいなく感じます。このような機会を作れる教育者を目指していきたいと思います。

今まで本当にありがとうございました。

<8 班グループリーダー：松下 楓子（大学 3 年）>

私は 2024 年に初めてわんぱく KIDS に参加してから、今年で 3 度目の参加になります。初参加の GL では、班の運営に大変苦労しました。それでも翌年、リベンジのつもりで再び GL に挑み、気づけば今年もこの場所に帰ってきていました。

今回のわんぱく KIDS では、これまでの経験を生かし、心に余裕を持って子どもたちと関わることができました。8 班の子どもたちは明るく元気で、何事にも積極的に取り組む素直な子たちでした。何気ない会話を楽しむ姿や自然と助け合う姿が見られ、少しずつ互いを知り、班としてまとまっていく様子を嬉しく感じていました。

また、私はこの活動を通して、子どもたちとの向き合い方を学ぶことができました。必要なときは伝え、任せるところは任せる。子どもたちを見守る姿勢を意識すると、次第に子どもたちが自分たちの力で班を動かすようになりました。その分 GL として、他の班の動きやリーダー・スタッフの様子にも目を向ける余裕が生まれ、これまで気づけなかったところにも配慮することができたと思います。

そして今年は、かつてキッズだった子たちが中学生リーダーとして活動する姿を見ることもできました。子どもたちの成長だけでなく、かつて一緒に過ごした子たちが試行錯誤し成長する姿を見られたのは、3 年間参加してきたからこそその喜びだと思います。

わんぱく KIDS を通して、多くの出会いと自らの成長、そして誰かの成長を見届ける喜びを得ることができました。今回の 5 日間も、この経験を積み重ねてきたからこそ迎えられた、かけがえのない時間だったと思います。改めまして、このような機会をいただいたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

<5 班グループリーダー：熊倉 理紗（中学 1 年）>

私は今年で 3 回目のわんぱく KIDS の参加となりました。

5・6 年生の時は、班の中では最年長としての参加で、自分が引っ張っていかなくやという気持ちでとても緊張していました。しかし、下級生の子たちが行きのバスから私に「友達になろう！」や「ゲームしよう！」と気軽に話してくれて、緊張がいつの間にか消えていました。4 日目のキャンドルファイヤーでは、4 日目までのたくさん笑ったこと、少し失敗してしまったことを思い出し、大粒の涙が流れてくるほど大切な思い出ができました。一昨年の最終日は来年も参加したいという思いで終わり、去年の最終日には同じ部屋で仲良くなったお友達と一緒に中学生リーダーも行きたい！と思うほど、リーダーの方々やお友達が楽しませてくださいました。

そして、今年は今までとは違う中学生リーダーとしての参加となりました。最初は大学生リーダーの方々のように子供達をうまく声掛けしてまとめられるかととても不安でした。また、5 班は女子と男子でバスの号車が分れていたため、みんなで協力したり仲良くすることがすぐできるか不安でした。しかし、川遊びの時からみんなで水を掛け合い、転びそうな人がいたら助けてあげていたりして仲良くなってほっとしました。カレー作りでは、野菜を切る人・お皿を洗う人で分けてみんなで助け合って美味しいカレーを作ることが出来ました。

この 4 泊 5 日の思い出はみんなにとって一生の思い出になったと思います。私も色々失敗して同じ班のリーダーにも迷惑をかけてしまったけれど、忘れられない思い出をこの 3 年間で経験することができました。本当にありがとうございました。

<1 班グループリーダー：橋元 好美（中学 1 年）>

私は今回、中学生リーダーという立場で参加させて頂きました。これまでは参加者として楽しませてもらう側でしたが、今回は小学生のみんなの安全を守る立場になり、自分の責務を全うできるか不安でした。実際に活動が始まるとやっぱり思い通りにいかないことの連続でした。コミュニケーションを上手く取れなかったり、班の中で意見の衝突があったりと、私の力不足を痛感する場面も多々ありました。しかし、そこで諦めるのではなく、先輩リーダーやスタッフの方々の助言を参考にしながら、一人一人に寄り添うという所から始めました。

2、3 日目になると子供たちもわんぱくキッズのコンセプトである「自分で出来ることは自分でやる」「できないことは助け合う」が芽生え、だんだんと協力できるようになっていくのがとても嬉しかったです。みんなで笑い会った瞬間、全力で学び、遊び尽くしたこの 5 日間は私にとって最高の思い出になりました。

「これが一番楽しかった！」「一緒に遊ぼう！」と言ってくれた時には自分の中で何かが灯ったような気がしました。

この 5 日間、本当にお世話になりました。

そして、来年もきっと皆さんとお会いできることを信じてこの 1 年間、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

<7 班グループリーダー：福谷 茉歩（中学 1 年）>

今年で最後になる「わんぱく KIDS」だったけど、二日目の海や昼食の完食で七班の仲は一気に深まりました。

三日目は子供たちが干物をさばく姿に感心し、夜の班の人や他の班の人とやったカードゲームはすごく盛り上がった。四日目の裏山遺跡散策は暑くて大変だったけど良い経験になりました。その後のカレー作りではみんなで相談してスーパーで食材を買った。隠し味に入れたニンニクが大好評で、他の班のリーダーや子供達からも美味しいと言ってきて嬉しかったです。夜のキャンドルファイヤーでは少し寂しさを感じながらも楽しかった四日間を振り返りました。最終日は大掃除の後、小田原一夜城公園の山頂から綺麗な海を見てお弁当を食べました。

前までは子供として参加していたから初めてのリーダーで戸惑う事やリーダーっぽい事ができていなかった場面があったけど、みんなをまとめ頼られる喜びを知る事が出来た。打ち上げに行く事ができなくて悲しかったが、わんぱく KIDS の最後にリーダーができた誇りとわんぱく KIDS で教えてもらった「自分で出来ることは自分でやる」「出来ないことは助け合う」という大切さを忘れずにこれからの学校生活などでも進んでみんなを引っ張っていきたいです。

<3 班グループリーダー：平田 紗彩（中学 1 年）>

今回初めて GL を務めさせて頂きました平田紗彩です。

もうわんぱく KIDS に行けない、参加出来ないといざなるとやっぱ悲しいし「また来年会おうね」がないのすごく悲しいです。

わんぱく KIDS には沢山学び、人との関わりも学びました。

2 回キッズとして行き 1 回リーダーとして行きどちらも楽しく濃い思い出になりました。

バスでは隣の席の人と仲良くなり友達も沢山出来ました。

普段関わらないような人とも関わる事がありました。

時には怒ったり怒られたりした時もありました。

協賛

三菱地所ホテル&リゾート(株)
(ロイヤルパークホテル)

(株)建設技術研究所

協力・物品協賛

(株)オーガニック・キッチン

小坂こども元気クリニック

(公社)東京青年会議所 中央区委員会

(株)ネオ・コミュニケーションズ

天麩羅 天音

タチバナアーツ管理(株)

古屋法律事務所

(株)小川商会

富江 裕子

半澤 勝己

高松建設(株)

(株)サヨカ

朋和商事(株)

(株)サプル

(株)中央コミュニティー

飯塚 宜広

下目黒歯科内科

前田 千晴

大森造園建設(株)

(株)日本ワークサービス

(株)セントラルエステート

(※順不同 敬称略)

＜当報告書に関するお問い合わせ先＞

特定非営利活動法人 シンク・イー

E-mail : 2026wanpakukids@gmail.com